

甲南Today

2015 Autumn NO. 48

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

甲南Today NO.48

2015年9月25日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL.078-431-4341(代)

<特集3>
フロンティアサイエンス学部
交差し刺激し合う未来志向の情熱
サイエンスマインドが
とまらない

甲南学園創立100周年
カウンタダウン連載
活動の輪を広げる同窓生たち
甲友の絆を訪ねて

なるほど！甲南アカデミア
スポーツ・健康科学
教育研究センター教授
山崎 俊輔

<特集1>
甲南大生からのワールド・レポート
スポーツから広がる未来
海の向こうに成長の
フィールドがあった

<特集2>
貴志康一の遺志を継ぎ
永遠のいのちを与える
元名古屋フィルハーモニー交響楽団
コントラバス奏者
岡崎 隆氏

ONLY ONE VOL.19
—個性をカヘ—

「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者 平生飢三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園の光り輝いている学生・生徒をご紹介します。



甲南大学 経営学部 2年次
谷口 優樹さん
たにくち ゆうき
念願であった被災地に足を運ぶことができた谷口さん。「この経験を足がかりに大学生活では、もっと多様な経験がしたい」と意欲的に語る。

●「復興支援インターン」とは、日本全国の大学生が、被災企業で職業体験をし、感じ学んだ被災地および被災地産業の現状を、全国各地で情報発信する取り組み。被災地産業の振興や被災地全体の振興につなげることを目的とするプログラムです。(主催：復興大学、共催：復興庁)

被災地のリアルを伝え、 共感の輪を広げたい。

数々の出会いに感謝し、
ますます高まる復興支援への意欲。

「それでも自然に生かされている」。
宮城県の東端、牡鹿半島に位置する女川町。
自動車や家屋が、荒れ狂う濁流に飲み込まれていく。2011年3月11日、東日本大震災のもたらした衝撃は、当時中学3年生だった谷口さんの心を激しく揺さぶった。やがて現地の支援を志す人が奮闘する姿を、テレビ画面越しに眺めるうち「自分も役に立ちたい」との思いが募った。しかし、中学生の自分は何もできないもどかしさに苛まれていたと話す。それから4年、被災地の現実を肌で感じることで大切だと思っていた谷口さんにとって、復興支援インターンへの参加は自然な流れだった。「KOREC(甲南大学地域連携センター)」を通じて、復興支援インターンを知ったのは1年次の年末。「これだ！」と直感した私は迷わず応募しました。
そして1年次の3月、インターンシップ先である女川町の株式会社高政(たかまさ)に赴いた。

水産業が盛んで、サンマの水揚げは全国トップクラスを誇る。「高政は、女川町に本社を構える水産加工メーカー。魚肉練り製品の製造・販売を行っています。蒸し蒲鉾や笹蒲鉾などを扱っているのですが、どれも本場においしい。三陸海岸で獲れた海の恵みを、最大限に生かそうとする人々の思いが詰まっています」。
インターンは1週間。現地入りし、さっそく生産工場のラインに立つ。慣れた手つきで従業員に交じり、風味豊かな製品に囲まれながら詰め込み作業に動いていると、「まるでこの営みは何事も無く繰り返されてきたように感じた」と言う。しかし実際には数年前、大震災に襲われたのだ。就業中、社長や専務、社員の方々の口から、被災当時の状況や復興への思いが語られた。社員2名を亡くした悲しみ。残っていた材料で蒲鉾を作り避難所に無料で配布し被災者の命をつないだこと。そして社員を一人も解雇することなく、それどころか毎月5名ずつ採用し、雇用の支援をしたこと。谷口さんは人々のことばの端々に「大変な苦労があったが、それでも自分たちは女川町の豊かな自然と、そこに住む人々に生かされている」との思いが感じられ、また復興に向けて頑張っておられる人々

の姿にも感銘を受けたと言う。
「神戸はどうだったの？」
答えに窮したとき、
初めて故郷と向かい合えた。
インターンでの印象的な出来事として、谷口さんは女川町の人々との出会いのほか、他大学の学生との交流を挙げる。同じようにインターンをする学生の着眼点や考え方の違いに大いに刺激を受けたと言う。特にハッとしたのは、神戸の復興について問われ、答えに窮したときだ。生まれる前のことで、実感がなくて当然かもしれない。しかし、「他県の復興に携わったことで、被災した故郷の軌跡に関心が高まった」と語る。
谷口さんは再び東北地方へのボランティア参加を決めている。そこでは、女川町の取り組みについての発表も行う予定だ。また復興支援インターンへの参加者を増やすため、KORECのサイトへ自らの体験レポートを掲載するよう交渉済みだとか。そして、これからは女川町での活動を発信する取り組みを続けたいと言う。決しておしゃべりではない彼の瞳が、内に秘めた情熱を雄弁に物語っていた。



インターネットで甲南へ <http://www.konan-u.ac.jp>



表紙の絵

西井 義晃 画「学生会館と文化部室」

西井 義晃さん
1961年甲南大学経済学部卒業
元自由美術会員

甲南Today

CONTENTS
2015 Autumn

No.48

03 特集1

Field of Dreams スポーツから広がる未来

海の向こうに成長の フィールドがあった。

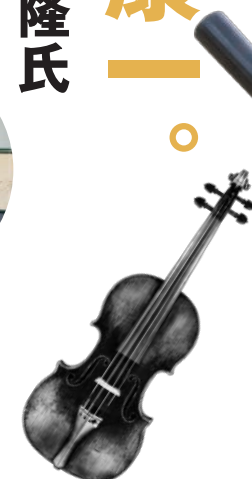
甲南大生からのワールド・レポート



06 特集2

夭折の天才作曲家 貴志康一。

その遺志を継ぎ、永遠のいのちを与える。岡崎隆氏



09 岡本わが町

「自然」と「文化」が紡いだ豊かな歴史を次代へ
文学部英語英米文学科教授 中島 俊郎

10 高中Topics

兵庫県高校総体 団体戦制覇
甲南高等学校アーチェリー部



11 It's KONAN Style 第一線で活躍する卒業生

卓越した行動力と尽きない情熱で、
世界の景観をデザインする。
ランドスケープ・アーキテクト 山本 哲也氏



13

なるほど！甲南アカデミア
スポーツ・健康科学教育研究センター教授 山崎 俊輔

真剣に向き合うことで生まれる尊い信頼関係。
世界へ広げ、未来につなげたい
「自他共栄」の心。

柔



15 特集3

交差し刺激し合う未来志向の情熱！

サイエンスマインドがとまらない。

フロンティアサイエンス学部

17

平生鈆三郎日記刊行記念シリーズ
難産の非営利・病人本位の甲南病院



19

甲南学園創立100周年カウントダウン連載

活動の輪を広げる同窓生たち 甲友の絆を訪ねて。

21

学友会館・学生会館が
生まれ変わります。

22

オール甲南の集い
開催のお知らせ



23

新任・退任教職員紹介

25

KONAN
FORUM

裏表紙

個性をカヘー ONLY ONE
被災地のリアルを伝え、共感の輪を広げたい。





Football

ほんごう ゆたか
経営学部 2年次 **本郷 友崇さん**

まったく使えなかったドイツ語も、今やすっかりマスター。チームメートはもちろん、ご近所さんともおしゃべりするほどに。



ヨーロッパのスポーツ文化と生活の関係に共感する。

経営学部2年次の本郷さんは、2015年度「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」の留学生に選ばれ、2016年3月まで約1年間の予定で、ドイツにサッカー留学しています。滞在するのはドイツのマインツ、日本代表ミッドフィルダー武藤嘉紀選手が移籍したFSVメインツ05のお膝元の町です。ドイツリーグのサッカーチーム「FVggカステル06」に籍を置き、チームの勝利に貢献するとともに語学学校に通いドイツ語の習得や、サッカーを切り口とした、ドイツにおける市民のスポーツ環境や経済効果などに着目して研究しています。

そもそも本郷さんの関心が強く海外へと向いたのは、1年次の春休みに体験したスペインへのサッカー留学がきっかけ。

「日本ではほとんどの公園でボール遊びが禁止されていますが、スペインではボールをもっているだけで『勝負をしよう!』と声を掛けられたり、至る所にストリートサッカーのコートが設けられていたり、スポーツが生活に深く根ざしているように感じました。このヨーロッパのスポーツ文化に魅力を感じ、もう一度ヨーロッパで、日本に取り入れる

ための研究をしたいと考えるようになりました」。

世界を知り、ますますふくらむグローバル人材への思い。

ドイツではプレーヤーとしての体格差を痛感。その差を補うために徹底して筋肉を鍛え、今やゲームに出場し活躍しています。「今まで見たことのないような筋肉隆々のチームメートと日々練習するうちに、メンタル、フィジカルともに成長しました。今はリーグ戦の前哨戦にも、たくさん出場しています。ゲームを通して、戦うという目的だけでなく、スポーツが人をつなぐツールだと実感しています」。

留学も残り半年、今後、本郷さんはメインツ中心であった活動を、ドイツ全土に広げていく予定のようです。「ドイツ全土を回ることで、州ごとに異なる生活スタイルを体感し、日本により適するスポーツ文化を模索したいと考えています。また、ヨーロッパ全土にも目を向け、幅広く知識を得たいと考えています」。

スペイン留学時には、プロチームからの契約オファーもあった本郷さんは、最後に、こう締めくくりました。「帰国後はプロのサッカープレーヤーも視野に入れつつ、世界でグローバルに活躍できる人材をめざしたいです。そのために、『トビタテ!留学』仲間のネットワークを活用して、ドイツ以外の国々のスポーツ文化の情報を集め、甲南大学の学びと連動させて研究を続けます。また、留学のすばらしさを知ってもらうために、広報活動のお手伝いもしたいと考えています」。

「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」とは、2014年からスタートした文部科学省が主導し官民協働で取り組む海外留学支援制度。派遣留学生は支援企業とともにグローバル人材コミュニティを形成し“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、または世界を視野に入れて活躍できる人材”へと育成されます。

「トビタテ!留学JAPAN」ホームページ <http://www.tobitate.mext.go.jp/>



特集1 ✈️ 甲南大生からのワールド・レポート

海の向こうに成長のフィールドがあった。



甲南学園創立者 平生飢三郎は、建学の理念の一つで「世界に通用する紳士・淑女たれ」と唱えています。その理念を体現するかのよう、甲南大学には、自らの成長のフィールドを海外に求め、奮闘している学生がたくさんいます。また近年、単に留学や語学研修などにとどまらず、海外経験はさまざまな分野に広がっています。今回紹介する学生のキーワードは「スポーツ」です。それぞれが追求するスポーツを通して、世界と向き合う経験から、多様な成長を実感している2人の甲南大生を紹介します。



夭折の天才作曲家 貴志康一

その遺志を継ぎ、永遠のいのちを与える。



おかざき たかし
岡崎 隆氏
Takashi Okazaki

貴志康一(1909～1937)は、旧制甲南高等学校で学んだ後、ベルリンに留学。フルトヴェングラーなどと親交を深めながら頭角を現し、指揮者・作曲家としての輝ける業績を残して短い生涯を駆け抜けました。ご自身もコントラバス奏者として活躍し、貴志の管弦楽曲「日本組曲」「日本スケッチ」の浄書譜※を完成させた岡崎隆氏に、貴志作品の魅力とその楽譜を後世に伝える意義について、お話をいただきました。

※浄書譜(浄書譜面)／一般的に、手書きなどの楽譜を読みやすく、美しく仕上げた楽譜を指す。近年、ほとんどの楽譜は、楽譜作成ソフトを用いてコンピュータで作成される。

日本の作曲家へのイメージを根底から覆した、貴志康一の衝撃。

貴志康一との出会いは、今から28年前にさかのぼります。1987年、没後50周年記念コンサートのライブCD交響曲「仏陀」を、店頭で目にしたことがきっかけです。当時の私は、日本の作曲家にはあまり関心がなく、貴志についての知識もほとんど持ち合わせていませんでした。ただ、パッケージに大きくプリントされた奈良・東大寺の大仏に目を奪われ、「大仏様を交響曲にしたらどんな感じになるのだろうか?」と好奇心が湧いたことを覚えています。私ごとですが妻の故郷が奈良であることも親近感につながりました。軽い気持ちでCDを購入し、待ち時間にカーオーディオに入れてみたのですが…驚きました。こんなにも美しく、わかりやすいハーモニーの交響曲があったのかと。日本の作曲家の作品といえは、難解な現代音楽ばかりというイメージが完全に覆された瞬間でした。今もあのときの心が震えるような感動を、昨日のことのように鮮明に覚えています。

その翌年、名古屋フィルハーモニー交響楽団(以下、名フィル)の一員として初のヨーロッパ公演に参加しました。パリでベートルベンの「田園」を演奏したときのことです。アンコールで日本の楽曲を演奏したところ観客のみなさんが大変に喜んでくださり、スタンディング



Baseball

しぶむら りょうすけ
法学部 3年次 **渋村 涼亮さん**

硬式野球部では、副主将の責任感から“叱り役”を引き受け、怖い先輩を演じていますが、実は後輩思いの優しい先輩です。



チームプレーに徹して手にした初めての日の丸ユニフォーム。

2015年夏、オランダのロッテルダムで行われた国際野球大会ワールドポート・トーナメントに、日本代表として出場した硬式野球部に所属する法学部3年次の渋村さん。同大会の参加国は、日本、オランダ、台湾、キューバ、キュラソーの5か国。日本代表チームは阪神大学野球連盟の創立60周年を記念して、加盟6大学から優秀な選手が選抜され、「阪神JAPAN」として日の丸を背負いました。

オランダへ飛び立つ前の渋村さんに、これまでの野球歴を振り返りつつ、国際大会への意気込みを語ってもらいました。「代表選手は、阪神大学野球連盟春季リーグ戦の成績を元に選ばれ、私は打率3割5分1厘、本塁打2本という成績が評価されたのだと思います。初めての日の丸のユニフォームを渡された瞬間は、ただただうれしかった。リーグ戦当初は調子を崩していましたが、自分のことよりもチームの勝利を考えてプレーをした結果、過去最高の打率が残せたのだと思います」。

物心がつくころからボールを握り、野球と一緒に成長してきた渋村さんだが、これまで一度だけ野球をやめようと考えたことがあると言います。



「高校2年の春、選抜高等学校野球大会で甲子園に出場し、ベスト8まで進みましたが、3年最後の夏、兵庫県大会の決勝戦で敗れました。喪失感から『野球はもういいかな』と思うように。しかし、しばらくすると悔しさから『もっと野球がしたい』という気持ちがかみ上げてきました。そんなとき、甲南大学の谷口純司硬式野球部監督から入部のお誘いをいただいたのです。今は、あのときやめていたらとゾツとします」。

自分を大きく成長させた
世界大会の経験。

もともと抜群の野球センスを有する渋村さんは、入学後すぐに頭角を現し1年次からレギュラーに定着。谷口監督は「彼は、走攻守を備えたバランスの良い選手。努力家で練習熱心、また、ムードメーカーで、注目



されることで力を発揮するタイプなので、今回の世界大会への出場は彼の野球人生に、きつと弾みをつけることでしょ」と話します。

日本代表は、1勝4敗と満足な結果を残せず世界大会を終えました。帰国後、渋村さんは「世界大会での経験は、悔しさしか残っていません。しかし、海外選手とのパワーの違いを体感できたことや、大観衆の中での試合経験、何より日本代表として、今までにない緊張感をもってプレーできたことは、自分を成長させてくれる大きな経験になりました」と語ってくれました。一回り大きくなった渋村さんの存在は、早速、部員たちを刺激しています。この秋のリーグ戦、硬式野球部の快進撃に期待が高まります。

「ロッテルダム・ワールドポート・トーナメント」とは、2年に一度、オランダのロッテルダムで開催される野球の国際大会。2015年の同大会では、ナショナルチームレベルの選手を擁したキューバチームが優勝。日本チームは、キュラソーに勝利した以外は敗れ、参加5チーム中4位の成績で大会を終えた。



オペーシヨンを受けたのです。万雷の拍手に包まれながら、パリの人々の私たちに對する心の声が聞こえたような気がしました。それは「やっとあなたたちの音楽を聴くことができた。日本人の音楽を聴かせてくれてありがとう」というメッセージです。貴志との運命的な出会いに続き、演奏者として海外の反応に触れたことによつて、日本の作曲家の作品をもっと知りたいという思いが深まりました。

コントラバス奏者としての悔しさが、ライフワークへの扉を開いた。

著名な指揮者であり、「貴志康一の伝道師」としても多大な功績を残された小松一彦氏との出会いも、今から思えば運命的なものでした。1989年に小松氏が名フィルに客演されたときのことです。オーケストラ仲間とレストランに出かけたら、偶然、同じ場所に小松氏がいらつしやいました。食事の邪魔をしてはならないと思いつつも、あの交響曲「仏陀」の指揮者である小松氏にどうしても感動を伝えたいと考え、「先生！貴志のCDを聞いています！」と勇気を奮い起こして言つてみたのです。すると驚いたことに小松氏は立ち上がり、私のほうに歩み寄つて手を強く握り「ありがとう」と満面の笑みで言つてくださいました。その高揚した表情と声音に触れた

とき、現代のマエストロをここまで夢中にさせる貴志康一という存在の大きさに改めて胸を打たれました。

このころから、日本近代音楽館（現・明治学院大学図書館附属機関）に足しげく通い、主に戦前の作曲家による作品の楽譜や音源、上演プログラムなどの調査を本格的に始めました。しかし研究を進めるほどに、厳しい現実が直面します。曲目がわかつても音資料が残っていない。楽譜が見つからずとも演奏のためのパート譜、総譜から特定のパートを抜き出した演奏のための楽譜がない。パート譜が残つていても経年変化で判読不能など。これでは、たとえ演奏できたとしても理想とかけ離れたレベルになることは間違いない。コントラバス奏者の一人として、深い悲しみと悔しさを覚え、ました。そんな思いが「楽譜を浄書し、パート譜を作ろう」という決意につながつたのです。それから作曲家のご遺族や権利者の方々に手紙を書いて許諾をいただき、本業の傍ら少しずつパート譜の作成を始めた。

「遅かったね。やっと来たか」夢にまで見た楽譜との邂逅。

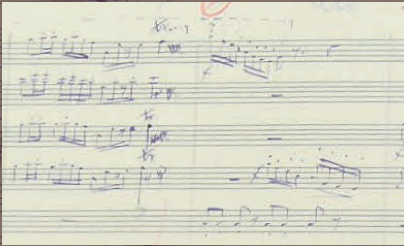
甲南学園の「貴志康一記念室」を訪ねたのは、名フィルを退職後の2008年。すでに交響曲「仏陀」の感動から20年余りの時が流れていました。記念室の扉を開け

初めて目にした総譜。

夢にまで見たそれには

まるで、貴志のほとばしる

情熱が宿っているようでした。



ゾクするような喜びを感じる。あの楽想の転換は天才にしかできません。まさしくおつしやるとおりだと深く共感しました。「仏陀」は、荘厳な序奏のあと明快な第一主題に移り、第二主題で美しいメロディーが現れます。その後、短調で提示されたメロディーが長調に転じるのですが、そのときの何ともいえない開放感と心地よさ。一度、耳にすれば、誰もが虜になる貴志の魅力の神髄です。このように尊敬する小松氏が2013年に亡くなられた後、私のもとに「貴志康一記念室」から楽譜作成をしてほしいという正式なオファーが舞い込みました。小松氏が、天国から糸を差し伸べてくださったのではないか。またもや運命的な力を感じながら「日本組曲」、さらには「日本スケッチ」の浄書譜作成に取り組むことになったのです。思えば、甲南学園を訪ねてから5年。念願の浄書に携わらせていただく幸運に深く感謝しながら、パソコンを用いての作業に着手しました。最初こそ緊張しましたが、いざ始めると時が経つのを忘れるほど夢中になりました。浄書には、作曲家が楽想を得る過程を追体験できるといふ側面があるのですが、貴志はメロディーやハーモニーが次から次に浮かび、

そのスピードに楽譜を書く手が間に合わなかったのではないかと感じます。そのあふれんばかりの才能と創造性、人々を楽しませよう、驚かせようとする生来のサービスピリット。クラシックの原点ともいえる普遍的な魅力と、日本人にしか書けない情緒的な旋律の双方を兼ね備えた貴志の音楽世界を、心ゆくまで味わいました。浄書譜作成は、私にとってこの上なく贅沢な体験だったのです。

永遠の生命が宿る貴志作品を、新しい息吹とともに次の世代へ。

2014年2月、「日本組曲」の浄書譜は完成し、3月には、その中の「道頓堀」のみが交響曲「仏陀」とともに高関健氏指揮・大阪フィルハーモニー交響楽団によって演奏され、好評を博しました。さらに今年3月には、「日本スケッチ」全4曲の演奏用浄書譜も無事、完成させることができました。どちらも、これまで判読の難しさゆえに記載が見送られていたドイツ語表記を、名古屋日独協会の協力のもと解説して並列表記し、より正確を期することができたことに喜びを感じるとともに、このような機会を与えてくださった甲南学園「貴志康一記念室」の方々に改めて感謝の念を深めました。

ご存知のように貴志康一は1937年、わずか28歳という若さでこの世を去りました。この天才作曲家にもう少し長い時間



ると、目に飛び込んできたのは貴志の端正な面持ちを伝える大きな写真です。その瞬間、思わず息をのみました。「遅かったね。やっと来てくれたのかい？」という貴志の声が聞こえたような気がしたからです。

突然の訪問だったにもかかわらず「記念室の方は温かく迎え入れてくださいました。」「楽譜を見せていただけませんか」という申し出に快く応えてくださり、初めて目にした総譜。夢にまで見た貴志のそれは、想像以上のすばらしさでした。楽曲のポイントを押さえたレイアウト、創作の息吹を伝える生き生きとした筆致など、そのすべてに貴志のほとばしるような情熱が宿っています。一方、パート譜も見せていただきましたがこちらには改善すべき点が見え、散見されました。一般にはあまり知られていませんが、パート譜にはさまざまな工夫が必要なのです。たとえば、楽譜のページをめくる「譜めくり」。何げなく次のページを開いているように見えても、実際には演

奏に支障が出ないようにフレーズの途中にめくりが来てはなりません。そのほかにも楽想の複雑なところは大きく記すなど、工夫を重ねてパート譜は完成します。貴志のパート譜は1930年代には優れたもののだったに違いありませんが、現代の演奏を前提にすればいくつも改善すべき点があると感じました。

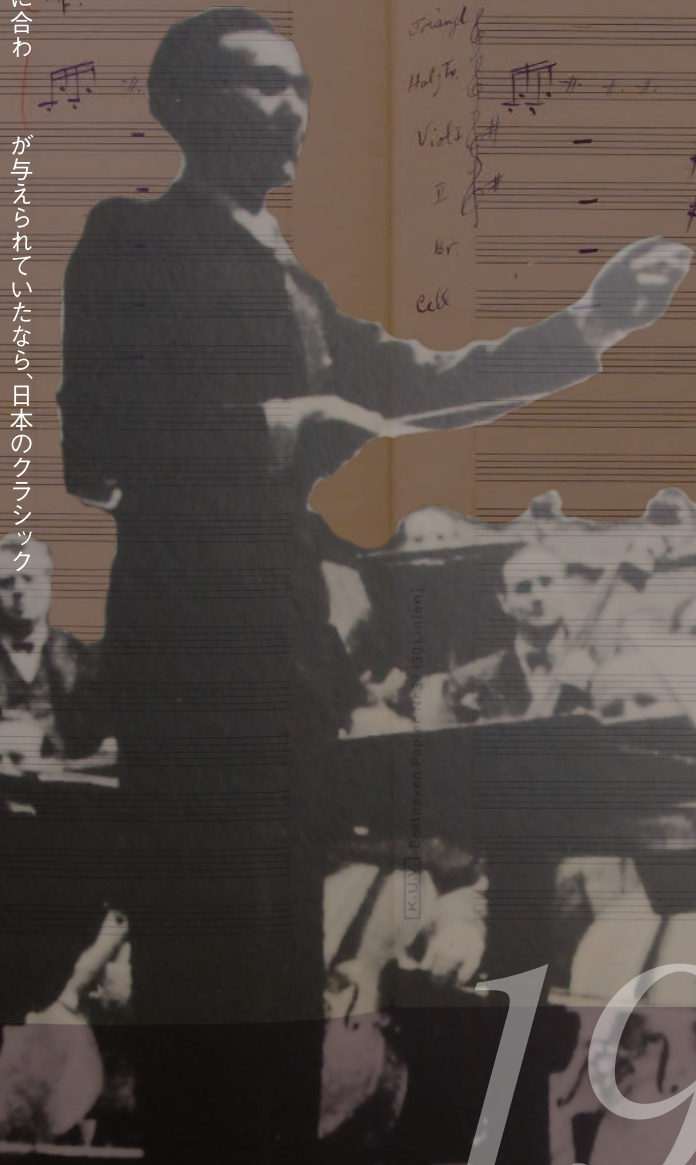
「貴志先生のパート譜を私に作らせてください。ボランティアで構いません。その日、私は自分が日本の作曲家の浄書をライフワークにしていること、その原点が紛れもなく貴志であることを伝えて記念室を後にしました。」

運命的な力を感じながら、念願の「日本組曲」浄書へ。

翌年、ザシントンフォニーホールで「貴志康一生涯100年記念コンサート」が開かれました。その際、小松氏による交響曲「仏陀」に関するレクチャーがあり、こんなことをお話しされたのです。



「仏陀」の短調で提示されたメロディーが長調に転ずるところ。私は、指揮台に立ちながら毎回、ゾク



Profile

岡崎 隆（おかざき たかし）氏

1948年愛知県生まれ。1971年から2008年まで、名古屋フィルハーモニー交響楽団においてコントラバス奏者として活躍。現在も名古屋を中心にオーケストラ・室内楽コンサートへの客演奏・指揮の傍ら、戦前を中心とした日本の作曲家の研究、評論、演奏のための浄書譜作成をライフワークとして続ける。貴志康一のほかに須賀田穠太郎、橋本國彦、高田三郎などの作品を手がけ、その数は現在50曲以上。

貴志康一記念室



甲南高等学校・中学校に設けられた記念室には、ご親族によって大切に守られていた貴志康一の遺品が数多く所蔵され、自筆譜などの資料が閲覧できます。

※ご来室の際は、事前にご予約ください。

岡崎氏が作成された「日本スケッチ」「日本組曲」の指揮者用楽譜（フルスコア）、楽器用楽譜（パート譜）は貸出可能です。お問い合わせは貴志康一記念室へ。なお、今年度中にそれぞれのフルスコアミニチュア版を出版する予定です。

貴志康一作品のCDは、甲南大学生協で販売しています。詳細は貴志康一記念室ホームページにて。 <http://www.konan.ed.jp/introduction/ob/artkishi/>

お問い合わせ Tel：0797(31)0551 E-Mail：koichi_k@konan.ed.jp



兵庫県高校総体 団体戦制覇

甲南高等学校アーチェリー部

国体・インターハイに向け、ますます意気盛ん。

2015年6月に開催された「第59回兵庫県高等学校総合体育大会アーチェリー競技会」。その予選で成績トップ10に甲南高校アーチェリー部のメンバー7名が入賞。翌日行われた団体戦決勝では優勝の栄冠に輝きました。

「他校と比べて自由にのびのびとアーチェリーを楽しんでいることが特長です」と顧問を務める岡芳樹（おかよしき）教諭。「中学生と高校生が合同で練習を行う中、上級者は手本を示すべくいつも試合のように集中し射撃するので、技術はもちろん精神面まで鍛えられます。だからこそ大事な場面でも萎縮せず、本来の実力を発揮できたのでしょう」とも話されました。

同部は現在、体育館の建て替え工事の影響により、練習場が使用できず、小体育館において至近距離から矢を射つ「近射」しかできない状況です。ここでは、決して十分な練習環境ではない中、逆境を乗り越えて快挙を成し遂げたアーチェリー部のメンバーをご紹介します。



県大会の感想と今後の意気込みを聞きました！



県大会の団体戦で個人成績1位を獲得。リリースの前に横風が吹いてきたのは予想外でしたが、少しでも風上を狙う戦略がピタリと的中しました。チームの後輩を引っ張ってこういうの使命感が、最高の結果に結びついて感激しています。

よねだ たつや
◆ 三年 米田 達哉 さん ◆



主将としてメンバーをまとめるなどの役目を果たし、一方で自分自身の技術も高めていく。これらの両立は大変ですが、アーチェリー部をもっともっと強くしていくために、国体ではぜひ入賞したいです。

やまむら しょうじろう
◆ 二年 山邑 祥次郎 さん ◆



1日目は調子が良かったのに、2日目は油断してしまったせいか思った以上に点数が伸びず不本意な結果に…。弓を以前からの愛用品に戻してから調子が良かっただけに悔しいです。インターハイでは平常心で頑張ります。

おくの しげる
◆ 三年 奥野 誉 さん ◆



プレイヤー兼マネージャーとして、貴重な経験をたくさん積み重ねています。県大会に出場した唯一の一年生でもあり、今後ともがんばり続けることで「成績次第で学年に関係なく大会に出て活躍できる」ことを後輩に示したいです。

おかざき きょうすけ
◆ 一年 岡崎 恭輔 さん ◆



「自分に自信を持って」というコーチのアドバイスに従った結果、県大会個人成績2位の好成績を残せました。自信を持つには、とにかく練習あるのみ。これからもたくさん練習を積んで、インターハイでは優勝をめざします！

のむら ひかる
◆ 三年 野澤 光 さん ◆



県大会の団体戦では、汗で滑ったせいで矢を的から外してしまうなどのミスショットもあり、自分の未熟さを痛感しました。それでも大きく調子を崩すことなく最後まで戦い抜けたことでは、精神面に自信ができました。

なかもと ようすけ
◆ 二年 中元 陽介 さん ◆

岡本 わが町

～「自然」と「文化」が紡いだ豊かな歴史を次代へ～

甲南大学と歩みをともしてきたといえる街・岡本。洗練されたモダニズム文化の香りを今に残し、京阪神を代表する住宅・文教地区としても知られる街の歴史が一冊の本にまとめられました。今年4月、『岡本 わが町 岡本からの文化発信』を出版した文学部英語英米文学科の中島俊郎教授のお話から、その趣旨や内容を紹介しします。

イギリスが教えてくれた
「地域史」という豊かな文化。

イギリス文学・文化史の研究者として数々の実績を残してきた中島教授『イギリス的風景』や『オックスフォード古書修行』などの著書も、その深い造詣とユーモアある筆致によって多くの読者を魅了しています。そんな中島教授が、専門分野と一見無関係な『岡本 わが町』を出版した背景には、岡本つ子としての地元愛のほかに研究者ならではの視点と問題意識がありました。「イギリスは、人の一生を物語る『伝記パイオグラフィ』」が盛んな国です。地域史も人気があり、文房具店などで平積みされているほど。ところが岡本では、1953年の『本山村誌』を最後に郷土誌は作られていません。町の歩みと人々の個人史を交差させた新しい地域史を後世に残したいと考えました。

ありのままの岡本を残すために
市井の人々の自由な声を。

本書には、甲南学園の創立者・平生鈺三郎や文学者・谷崎潤一郎などゆかりの著名人とともに、戦前からこの地に住まう人々の文章が数多く採録されています。市井の人々の自由な声がありのままの岡本を伝えてくれると確信していました。それら

の声を丁寧にくみ取り編集してくださった廣岡倭氏（阪神文化交遊会会長）の熱意には、感謝を禁じ得ません。呼びかけに応じて約70人もの人々が寄せた文章は、ほとんど手を加えず歴史的事実と異なる部分だけが修正されています。神戸大空襲や阪神大水害（1938年）に比べて阪神・淡路大震災の描写が思いのほか少なく、わずか20年の歳月では客観視できない重みを感じました。それぞれのページには、文章に書かれていない「記憶」も刻まれているのです。

岡本の「全体像」を伝え、
その先にある未来を描く。

中島教授は、グローバル化の進展によって街の均一化が進み、文化の繊細なひだは消えつつあると語ります。『岡本 わが町』は、放っておけば忘れられる市井の人々が生きた証しをすくい取り、次世代へ伝える小さな網目です。この網目がどんな模様に見えるかは、読む人の視座によって変わるでしょう。繊細な網目からは、古来「梅の名所」として謳われた美しい自然と、その自然を慈しみながら営まれた人々の丁寧な暮らしもくつきりと浮き上がります。大自然を縦軸にモダニズム文化を横軸に発展してきた街・岡本。その「全体像」を見つめたとき、未来の姿もまた鮮やかに見えてくるはずです。



© 岡本梅花見図 彫／藤沢洋 摺／松永安生 版元／岡本交友会



岡本 わが町 岡本からの文化発信

A5判 318ページ

【編者】中島俊郎 【発行人】廣岡 倭

【出版社】神戸新聞総合出版センター

1,800円(税別)

甲南大学生協書籍部(078-441-7901)でもお求めいただけます。

なかじま としろう
中島 俊郎 教授

甲南大学文学部英語英米文学科教授。イギリス文学・文化史を専門とする英文学者。甲南大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得。1997～98年、オックスフォード大学コーパス・クリスティ・カレッジ研究員。神戸岡本・宝蔵出身。趣味は古書店巡り。



卓越した行動力と尽きない情熱で、世界の景観をデザインする。

庭園や植栽にとどまらず、建物も含めて敷地全体を総合的に企画設計することによって、優れた景観や有用な機能と安全性をうみだすランドスケープ・アーキテクチャー。甲南大学卒業生の山本哲也氏は、現在、アメリカ国務省に所属し、大使館など在外公館施設のランドスケープ・アーキテクトという職務を担っています。学生時代より海外に可能性を求め、積極的なチャンスを切り開いてきた山本氏に、そのエピソードに富んだキャリアを振り返っていただきました。

あらゆる国の事情に沿ったランドスケープ・アーキテクチャー。

基本的な人権と自由を象徴する、広大な緑の広がるナショナル・モール。その木立の中に建設されたアメリカ国立第二次世界大戦記念碑。観光客も多いアメリカの首都に相応しく、かつ歴史上最大の犠牲者を出した出来事の記念碑として、厳肅なスペースにデザインされました。毎日観光客に混じって、戦死された方々のご家族も世界中から訪れています。この記念碑は、私がアメリカに渡りデザイン事務所勤務していたころ手がけたプロジェクトの中で、最もやり甲斐のあったプロジェクトかもしれません。そのほか、サウスカロライナ州のコンベンション・センターやメリーランド州の都市公園、チエサピーク湾自然保護区のビクターセンター、南アフリカやドバイのショッピングモール、大規模な大学のキャンパスから小さくても素敵なジョージタウンのお庭まで、バージニア州では寺院の日本庭園のデザインと施工にもかかわりました。

現在、国務省で担当している世界各国のアメリカ大使館や領事館は、それぞれの国の環境や気候、そして現地独特の文化や建築方法に基づいてデザインを進めて行きます。イギリスでは、敷地内に多くのソーラーパネルを配置し、大使館で使用する電気をすべて賄います。さらに空調用水はもちろんのこと、キッチンなどで使用した水も浄化し、庭のかんがい用水としてリサイクルしています。こうした先進的な取り組みにより、環境保護に対するアメリカ政府の姿勢

が、兄が通ったアメリカンスクールの様子を見て、私もいつか自由な雰囲気のアメリカーで学びたいと思うようになりました。バンコクで3年間を過ごし、帰国後は卒業生である両親の薦めで、甲南中学校の3年に編入。ちょうどそのころ、甲南大学にイリノイ大学との交換留学制度が設けられたことを聞き、学ぶ目的がより明確に。やがて甲南大学経済学部に入學し、交換留学の参加資格の一つであるTOEFL®の基準点をクリアするため、語学に力を入れました。何度も受験しましたが、スコアがなかなか伸びず、最後のチャレンジで基準点に8点ほど足りなかったときは、悔しくて両親の前で泣いたことを覚えています。

しかし、諦め切れなかった私はイリノイ大学の留学担当者に、どうしても留学したい思いを綴った手紙を送りました。返事がなかったのですが、その方が来日される日に直接談判しようとうと大学で待つことにしたのです。運良くお会いできたので、話しかけると「Oh, you must be Tetsuya!」と私のことを覚えていてくださいました。その場で渡された手紙には「英語を学ぶ科目を履修してくれるなら、私たちは受け入れる準備があります」とのメッセージが。ゼミの担当教員である熊沢誠先生やイリノイ留学制度の創設者でもある衣笠先生に相談すると、前例がなかったので留学を許可できるかどうかを教授会で話し合ってくださるようになりました。教授会当日は居ても立ってもいられず、ずっと大学で待っていました。協議が長引いたので、帰り支度をして熊沢先生の研究室を訪れると、扉に「おめでとう」の一言を書いたメモが貼られていました。それを見た瞬間はうれしさのあまり涙があふれて止まりませんでした。この経験により、多くの方々を支えられながら、自らの行動力で人生を切り開いていく大切さを学べたと思います。

ユーモアと行動力で乗り切った、人生の難局。

無事に1年間の交換留学を終え、帰国後は就職活動をスタート。ちょうど80年代のバブル経済に乗って世界を舞台にダイナミックなビジネスにかかわれることに魅力を感じ、大手ゼネコン数社の採用試験を受験しました。印象に残っているのは、最終的に入

りリーダーシップを示すことも大使館の役目です。

また、インドネシアのアメリカ大使館では、第二次世界大戦中に日本の支配下にあったインドネシアの独立調印が行われた建物を敷地内に保存しています。大使館はその国の政情などによつては、セキュリティーのためにその敷地を壁で囲む必要がありますが、インドネシア政府より市民がこの歴史的な建物を目にすることができるとデザインしてほしいと依頼されました。それを実現すべく、柵と壁を工夫して配置することにより、防護性を保ちつつも建物が館外から見える造りにしました。ほかにはない興味深い仕事だったので、今でも印象に残っています。

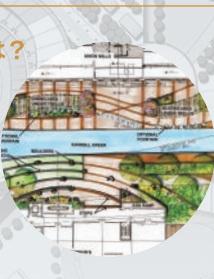
さまざまな大使館のプロジェクトに共通するのは、外交官やスタッフの安全を最重要課題の一つとしていくことです。ケニア、タンザニアの大使館連続爆破や、9・11アメリカ同時多発テロ事件以降、大使館のデザイン規定が大きく変わりました。都心にある大使館はターゲットになりやすいため、できるだけ郊外へ移行。4万平方メートル以上の広い敷地を確保したうえで、テロ発生時にも対応できるような敷地全体の構成を考えます。また、外交の最前線において機密情報を保護することは、外交官の安全や国益の確保にもつながります。ある国で大使館を建設中、壁の中の鉄筋をアンテナとして利用した盗聴設備の準備が進んでいたことが発覚したこともあり。デザインナーやゼネコン（総合建築業者）などは、すべてアメリカの企業でしたが、地元の下請け企業であった資材業者から、この鉄筋が納品されていたことがわかりました。こうしたスパイ映画さながらの情報戦が実際に繰り広げられています。

社を決めた企業の英語面接です。「日本のバブルが崩壊したら、日本の事業はどうしたらよいか」との質問に、真面目に答えるだけでは印象づけられないと思い、学生ながら余裕たつぷりに「That's a good question!」と前置きすると、面接官の方々から笑いを取ることができました。この目立ちがりのユーモアが採用の決め手になったと後で人事部の方から聞きました。

入社後、約1年半は東京で働き、その後は海外勤務でザイル（現コング民主共和国）へ。現地では、日本海外協力関係の水道工事の事務を担当しました。3年の勤務期間で、開発途上国の人たちのパワーと、行動力の大切さを感じる出来事がありました。新しい水道システムはほぼ完成し、配管工事のみを残した段階で、植民地時代から残っていた古い設備が故障し断水したときのことです。日本人による設備工事が完了したとの噂が広がり、工事現場の周りに水を求める人が押し寄せパニック状態に。警察の出動を要請しましたが、なかなか来ません。このままでは收拾がつかないと思い、貯水タンクの上に登ってメガホン片手に「みなさん危ないから並んでください」と叫びました。事務の仕事で地元住民の採用も担当していたので、私のことを知っていた人々は「ムッシュヤマモトだ!」と気づき、冷静になってくれました。そして私がホースを握り、順番に水を分けることで現場は沈静化。それをきっかけに、街の人気者になったのは貴重な経験でした。

ザイルの大自然が、もう一度学びたい気持ちを育む。

ザイルの工事現場があった街は首都から自動車です約10時間の場所。手つかずの自然が魅力でした。世界一の水量が流れるといわれる広大なコンゴ河ほとりの宿舎からすばらしい大自然の景色を毎日眺めることで、癒され、元気づけられる自分に気づき、環境が人にもたらす心理的効果に可能性を感じました。次第にランドスケープ・アーキテクトを本格的に学びたいと考えるようになり、大学院進学を志しました。子供のときから鍛えてきた絵画の腕を振るって自分なりの作品集を作り、アフリカで働きながらペンシル



ランドスケープ・アーキテクチャーとは？

さまざまな開発に際して、建物のプランだけでなく、敷地を含めた景観と生活環境をデザインの手法を用いて構想・構築すること。個人の庭園から都市全体の計画に至るまで、その領域は多岐にわたる。

アメリカで学びたい。甲南でつかんだ夢への切符。

世界の実情をふまえながら、国際社会に貢献できる現在の職業は、思い描いてきた夢に最も近いものです。私がこうして夢を実現できた原点は、幼少期、そして甲南に通っていた時代にあります。小学校5年生のころ、父の転勤に同行し、家族全員でタイ・バンコクへ移り住みました。私は日本人学校で学びまし

ベニア大学大学院への入学許可を得て、退職して渡米。大学院ではランドスケープ・アーキテクチャーとアーバンデザインの修士号を取得し、修了後は首都ワシントンのデザイン事務所職を得ました。いくつかのデザイン事務所でキャリアを重ねる中で、クウェート、マケドニア、アルバニアといった国々にあるアメリカ大使館のランドスケープを手がける機会がありました。それらの実績が評価され、現在勤務するアメリカ国務省よりオファーがあり、在外公館をはじめとした施設の企画や設計を担当することになりました。デザイン事務所での仕事は、それぞれ充実したものでしたが、国務省では、デザインに多くの時間を割くことができ自ら考えたコンセプトを基に、アメリカ中の有名な建築家と協力しながらデザインを詰めていくプロセスに恵まれて、さらに大きなやり甲斐を感じています。

世界に視野を広げ、自分だけのチャンスをつかんでほしい。

海外から日本を見ると、政治や経済が国際化しているにもかかわらず、居心地のいい日本に住む若者たちは海外の動向に無関心になりつつあるように感じます。このままでは、世界に取り残されてしまう危機を感じずにはいられません。特に中国やベトナム・タイ・インドネシアなどアジア圏の成長を目の当たりにして、もつと危機感を持つべきではないでしょうか。その点で、アジアなどで学ぶ甲南大学の海外留学プログラムは効果的だと思います。

思えば甲南は多くのチャンスを与えてくれた学園で、私もそれを享受した一人でした。チャンスとは決して留学に限ったことではありません。甲南で学ぶみなさんには、自分がステップアップする機会に気づきそれを生かすため、常にアンテナを張りめぐらせてほしいと思います。チャンスを手にし、無限の可能性に向かってチャレンジしてゆく人生は、実に楽しいものですから。

山本 哲也（やまもと てつや）氏

1963年大阪府箕面市生まれ。1973年タイのバンコクに転居、1978年帰国後甲南中学校3年に編入。1982年甲南大学経済学部入学。在学中イリノイ大学に交換留学。1987年大学卒業後、清水建設（株）に入社する。1991年ペンシルベニア大学大学院ランドスケープ・都市計画学部入学。1994年同修了、ランドスケープ・アーキテクチャー修士号および、アーバンデザイン修士号を取得する。以降アメリカにおいて複数のデザイン事務所を経て、2008年よりアメリカ合衆国国務省に勤務。

アメリカ国立
第二次世界大戦記念碑
(Washington, D.C.)



去る5月23日「山崎 俊輔先生講道館柔道八段昇段祝賀会」が催され、甲南柔友会(柔道部OB会)会員をはじめ、多くの祝福に囲まれました。

詳細は甲南柔友会HP (<http://www.konanjudo.com>) および甲南大学同窓会HP (<http://www.e-konan.net/news>) をご覧ください。

ちなみに私は阪神・淡路大震災から10年後、震災で受けた支援への感謝を伝え、支え合

駆けつけると、すでに多くの市民が避難して

いたのです。本来、避難所ではなかったことも

あって対応に混乱が生じる中、学生たちは自

身も大変な目に遭っているはずなのに、涙ま

みれになって奮闘しました。

生活水を汲むために住吉川までリアカーで

何度も何度も往復する者、フウフウ言いなが

ら救援物資で膨れ上がったリュックサック

を担いで来る者……。そのとき、私の頭に「自他

共栄」のことが湧き上がったのです。

このことは、講道館柔道の創始者、神戸市

出身の嘉納治五郎(1860〜1938年)が

掲げた理念で、「相手を敬い、感謝し、自他共に

満足を得て向上すること」を意味しています。

これはまさに「徳育を重視し、知育と体育のバ

ランスのとれた人材の輩出」を心掛けていた

甲南学園の創立者、平生鈺三郎(1866〜

1945年)のことは通ずるものと確信し

ています。

ちなみに私は阪神・淡路大震災から10年

後、震災で受けた支援への感謝を伝え、支え合

わねえ。そのとき、私の頭に「自他共栄」のこ

とが湧き上がったのです。

このことは、講道館柔道の創始者、神戸市

出身の嘉納治五郎(1860〜1938年)が掲げた

理念で、「相手を敬い、感謝し、自他共に満足を

得て向上すること」を意味しています。

これはまさに「徳育を重視し、知育と体育のバ

ランスのとれた人材の輩出」を心掛けていた

甲南学園の創立者、平生鈺三郎(1866〜1945

年)のことは通ずるものと確信しています。

ちなみに私は阪神・淡路大震災から10年後、

震災で受けた支援への感謝を伝え、支え合

わねえ。そのとき、私の頭に「自他共栄」のこ

とが湧き上がったのです。

このことは、講道館柔道の創始者、神戸市

出身の嘉納治五郎(1860〜1938年)が掲げた

理念で、「相手を敬い、感謝し、自他共に満足を

得て向上すること」を意味しています。

ちなみに私は阪神・淡路大震災から10年

後、震災で受けた支援への感謝を伝え、支え合

わねえ。そのとき、私の頭に「自他共栄」のこ

とが湧き上がったのです。



自他共栄

なるほど！
甲南アカデミア

達成感がさらなる意欲につながる
貴重な体験が長い人生の教訓に。

「徳・体・知を育み、社会へ奉仕する人材を養う」という甲南大学の理念に基づき、30年以上前から柔道を指導しています。どうしても激しいスポーツとの印象がつきまとう中、私は健康柔道をテーマに指導内容を工夫しました。初心者はもちろん体力に自信の無い人、運動に慣れ親しんでいない人でも取り組みやすいようにした努力が功を奏し、現在では女子学生が約半数を占めるほどになっています。カリキュラムについては安全第一を心がけています。ケガの予防には受け身の習得が欠

かせませんが、同時に投げ技や寝技なども指導することで授業終了後、学生からは「楽しかった」の声が絶えません。こうして柔道の魅力に目覚めた学生は、自ら積極的に学ぼうとしていくもの。がんばるほど楽しくなり、上達するとともにがんばるようになる。達成感がさらなる意欲を促す貴重な体験は、学生が歩む長い人生の礎となるはずです。

柔道には、いろいろな人と触れ合うことで得られることがたくさんあります。この春から車椅子を利用する学生が参加しており、私自身も試行錯誤を重ねながらの指導ですが、他の学生やOBの献身的なサポートには頭が下がるばかりです。当の学生は表情が明るくなり、その笑顔に周りが元気をもらっています。まさに甲南大学らしい柔道のあり方ではないかと自負し、お互いに助け合い高め合う気風を今後も継承していきたいと考えています。

阪神・淡路大震災の直後、奮闘する学生に見た
本学の理念と「柔」の道との共通点。

真剣に向き合うことで生まれる 尊い信頼関係。世界へ広げ、 未来につなげたい「自他共栄」の心。

明治15年に日本で創始され、今や世界のスポーツとして不動の人気を確立している柔道。柔よく剛を制するという競技性だけでなく、礼儀や教養を重んじる人間教育が支持されています。段位が上がるほど強さと人格が求められる中、今年、講道館柔道八段の昇段を果たしたのがスポーツ・健康科学教育研究センター 山崎俊輔教授。高等教育における柔道の有用性、甲南大学だからこそ可能な教えなどについてお話を伺いました。

— ご協力をお願い —

文中で触れましたが、山崎教授が発起人の一人として推進するブータン王国への柔道支援にご賛同いただける方は、募金にご協力くださいますと幸いです。

口座名義	「KOBEO自他共栄ブータン柔道を支援する会」 代表 山崎 俊輔
銀行口座	三井住友銀行 御影支店 普通 4863101

大切な瞬間に思い出し、己の弱さに打ち勝つ心の糧になります。

かく言う私自身も、まだまだ修行中です。今後「柔」の道を追求し、甲南大学の理念をますます柔道教育で体現するべく精進していく構えです。

「負けんぞ！」の闘争心は欠かせません。対戦相手よりも自分自身に闘争心に向けて、人間として大きく成長できます。こうして養った精神は、卒業後も脈々と生き続けるはず。たとえ柔道を離れたとしても、人生の糧になります。

海外からのゲストを迎える学生の態度は最初こそぎこちないですが、一度でも組み合うとたちまち親しくなれるから面白いですね。特に、真剣勝負で感情をむき出しにする方が深くわかり合え、お互いに相手を尊ぶ気持ちが芽生えます。

近年特に思うのは「自他共栄」の精神は国内外を問わず、誰もが潜在的に秘めているのではないということ。それを表に引き出す

柔道で培った精神力は
卒業後も生き続け、
己の弱さに打ち勝つ心の糧に。

冒頭で甲南大学の理念に基づく指導と申しましたが、技を磨いて人としての成長を図り、社会に寄与することをめざす柔道は、本学の学風に通じています。それを痛切に感じたのが阪神・淡路大震災でした。私自身、自宅が全壊したのですが、学生の身を案じて大学へ

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込みが年間に5、6チームもあり、また私個人を訪ねて

多くのゲストが訪れています。

うことのすばらしさを発信したいとの思いから「KOBEO自他共栄CUP学生柔道大会」を創設。出場チームが事前に「自他共栄」を主題としたレポートを提出し、柔道での成績の隠か、ボランティア活動や留学生への柔道指導など優れた社会貢献があった学校や個人を表彰しています。

平生鈺三郎は学生の思考力・独創力を伸ばすことが教育であるとも説いています。柔道を窓口にしたさまざまなことを体験する機会を設けることで、いみじくもこの実践に役立っているのではないかと自負しています。

海外への恩返しから生まれた
甲南大学と各国の懸け橋。

甲南大学に赴任して数年後、武者修行にフランス全土の道場を訪ねたことがあります。約2か月間にわたって見知らぬ土地、異なる文化に採まれる日々。私自身は誰の力も借りずにいたつもりだったのですが、振り返るとじつに多くの人々に助けてもらっていました。

それから数年後、少しでも当時の恩返しになればとの思いから、海外諸国での指導を決意。日本人が足を運んでいないところにこそ行く価値があると考え、ケニア、ザンビアなどアフリカを巡り、オリンピック種目への選出をきっかけに世界共通語となった「JUDO」を通じて友好関係を築きました。私は今、甲南大学柔道部の部長兼監督でもあります。が、海外諸国から合同練習の申し込み



交差し
刺激し合う

特集3

未来志向の
情熱！

サイエンスマインドが とまらない。



バイオテクノロジーとナノテクノロジーが融合した最先端領域「ナノバイオ(生命化学)」を学ぶフロンティアサイエンス学部(FIRST)。さまざまな研究が交差する刺激的な環境からは、常に多彩な成果が生まれています。これまでにない観察手法によって権威ある賞に輝いた後藤さん、地域に貢献しながら消費者視点の商品開発にも挑戦する高嶋さん。一見、まったく異なるお二人の活動から、FIRSTが育む未来志向のサイエンスマインドが見えてきました。

生命誕生のミステリーを 解き明かすホヤ受精卵の 観察手法に新風！

分子細胞発生学研究室に所属し、卵から生物の体を作り上げられるメカニズムを探っています。私の研究で用いる生物は、酒の肴としても有名なホヤ。ホヤは、ヒトと同じ脊索動物に分類されており、ヒトと共通のメカニズムをたくさん持っています。このホヤの卵では、受精から約1時間の間に体の前後が決まります。このメカニズムに微小管と呼ばれる細い繊維状の構造がかわっています。この微小管の構造が1時間のうちに卵内でダイナミックに変化し、レールの役割を果たすことで、体の後ろを決める物質を後ろ側に移動させるのです。しかし、その詳細はわかっておらず、そのメカニズムを確認

にプレゼンテーションを行いました。緊張しましたが、専門的なものから初歩的なものまで多岐にわたる質問に落ち着いて答えられたのも、大学の授業で発表を重ねてきた成果だと感じています。研究内容にはそれなりの自信があったとはいえ、まさか「サイエンス・インカレ奨励表彰」というポスター発表部門の最

生命化学と消費者教育の双方から 「お酒」というテーマにアプローチ。

「チームFIRST」は、兵庫県の消費者教育・啓発活動と協力・連携しながら、私たち自身がリーダーシップをとって消費者のみなさんを教育・啓発することを目的とする学生組織です。この活動に初めて触れたのは、1年次の10月のこと。先輩に誘われてワークショップに顔を出してみると、そこにいる全員がテーマである「健康食品」について活発に意見を交わしていました。その知識の豊富さと意識の高さに驚き、とても刺激を受けたことを覚えています。2年次からは、正式に参加して本格的な活動をスタートすることに。先輩の指導のもと学習会やワークショップで用いる資料を準備したり、来場者に説明したりと活動の基本を体験しました。そして現在、リーダーとして試行錯誤しながらチーム全体をまとめる役割を果たしています。今年4月には、私たちの専門分野である生命化学と消費者教育の双方の観点からアプローチできる「お酒」に焦点を当て、「お酒との上手なつきあい方」を調査・研究テーマに決定しました。目下、メンバー全員で日本の伝統的な酒文化やお酒の

するためには、微小管の細部を正確に観察しなければなりません。

3年次の夏、先輩の研究を引き継いだ私は、微小管をより精密に観察するため既存試薬の改良に取り組みしました。試行錯誤の末、3D画像で観察する場合にも、繊維状の微小管のみをよりクリアに見ることができるようになりました。さらに、この成果が単に「良く見えるような気がする」という感覚的な印象ではないことを証明するため、観察画像の輝度を数値化し、定量的に評価しました。実は、この作業に予想外の時間がかかり苦労することになるのですが、何とか改良した試薬の効果を客観的に示せるところまでこぎつけました。そして、レールの役割を果たす新しい微小管構造を卵の表面近くに見つけることができ、それをCAP-MTと名付けました。

優秀賞をいただけるとは思っていませんでしたので驚きました。これもFIRSTでの少人数授業を通じて、自分のオリジナリティを養えたおかげです。

最初こそ先輩に勧められてスタートした研究でしたが、自分の手で進めるうちにいつしか奥深さと面白さに夢中になりました。7月には、青森県で開催さ

健康成分・効用、体質に応じたお酒の選び方、自分で飲酒量をコントロールする方法などを調べているところです。これらの成果は、10月に開くワークショップや一般の方々を招いて行うサイエンスカフェで、ポスターや配布資料とともにプレゼンテーションする予定。一人でも多くの消費者にお酒を健康的に楽しむ知識を伝えたいと思います。

異分野交流に創造力が刺激される 日々。めざせ！甲南ブランドの 「健康日本酒」。

今年、さらに新たなミッションも加わりました。「KONANプレミア・プロジェクト」の「三極ネットワーク事業」としての活動です。三極とは、FIRST・CUBE・岡本の3つのキャンパスのこと。それぞれの学生がキャンパスの垣根を越えて、甲南ブランドの「健康日本酒」を開発することを目標に掲げています。すでに私たちが見つけたお酒の有効成分を基にCUBEのみなさんがマーケティング計画を立案したり、その逆に私たちが彼らの依頼を受けて成分分析を行ったりとコラボレーションは着々と進行中。おかげで他キャンパスにも仲のいい友人が増え、視野が大きく広がりました。

サイエンス・インカレ 奨励表彰を自信に世界の 科学者と切磋琢磨する未来へ。



フロンティアサイエンス学部 生命化学科 4年次
後藤 俊志 (ごとう としゆき) さん

今年春に、神戸国際会議場で開かれた文部科学省主催の「第4回サイエンス・インカレ」には、計127組の一人としてポスター発表部門に参加しました。開催中は、「ホヤ卵における免疫蛍光染色鮮明化条件の最適化および新規微小管構造の発見」をテーマに、他大学の先生や院生、企業の実験者から一般の入場者まで幅広い人々を相手



フロンティアサイエンス学部 生命化学科 3年次
高嶋 美月 (たかしま みづき) さん

また大学生協阪神事業連合の方々とミーティングをしたり、他大学の先生を学習会に招くなどのさまざまな渉外活動を通じて、就職後も役立つコミュニケーション力が身についたと満足しています。

「チームFIRST」のワークショップやサイエンスカフェの企画・運営は高く評価され、毎年複数名が兵庫県と大学生協阪神事業連合が交付する「くらしのヤングリエーター」に認定されています。私たちも先輩方に負けないよう次世代を担う消費者リーダーとして地域の期待に応えようと、「チームFIRST」ならではの問題意識で消費者教育・啓発活動を続けたいと思います。

来年は、大学生活の集大成となる年。将来の進路は未定ですが、大学院への進学も視野に「核酸DNAの研究」を進めることが目標。高度な知識と技術を身につけ、薬品や化粧品の研究開発職をめざします。



現在の甲南病院のエントランス

平生はこの病院建設に百万円を考えていた。そのうち、まず共同発起人の鑄谷正輔とともに十万円づつ出して言わば種銭とし、それに三井、三菱、住友らの財閥から各十万円の寄付に成功

三井との交渉も一筋縄ではいかなかった。総帥團琢磨を訪問したとき、一度三井は「慈善病院」で懲りていたから、彼は「病院の建設に寄付することは絶対に拒否」と強い口調で述べた。だが平生の必死の説得に根負けをしたのか、最後に團はできる限り「希望が達せらるる様尽力」と約束をする。しかし、後日平生に届いた確定金額は予定の半分であった。これには、團は

『平生鈆三郎日記』 第一巻～第十一巻を刊行中です。



『平生鈆三郎日記』第一巻～第十一巻を刊行しました。来年1月には、第十二巻を刊行予定です。定価は各巻20,000円(税抜)ですが、甲南学園関係者の方(卒業生、在学生、ご父母、教職員等)は、10,000円(税抜)でご購入いただけます。

ご注文・ご購入に関するお問い合わせ
甲南大学生協書籍部
Tel.078-441-7901 Fax.078-441-7915

醗金を洩る大財閥

ここで病院建設をあきらめる平生ではない。彼はすでに非営利・病人本位の病院のために医師養成も怠りなく進めていた。だが、底なし沼に入り込んでいた当時の日本、かつて富豪たちの醗金で甲南学園を創立した平生でも資金調達

は至難のことであった。平生はこの病院建設に百万円を考えていた。そのうち、まず共同発起人の鑄谷正輔とともに十万円づつ出して言わば種銭とし、それに三井、三菱、住友らの財閥から各十万円の寄付に成功

三井との交渉も一筋縄ではいかなかった。総帥團琢磨を訪問したとき、一度三井は「慈善病院」で懲りていたから、彼は「病院の建設に寄付することは絶対に拒否」と強い口調で述べた。だが平生の必死の説得に根負けをしたのか、最後に團はできる限り「希望が達せらるる様尽力」と約束をする。しかし、後日平生に届いた確定金額は予定の半分であった。これには、團は

財団法人 甲南病院の認可

設立構想から六年、平生の誠意と熱意で建設資金は関西中心に七十万円集まった。だが私立病院が財団法人となるためには内務省からの認可という高いハードルがあり、当時は指を屈するほどしかなかった。平生はそれを住吉村から鴨子ヶ原の敷地を貸与される条件として出した。申請書が住吉村役場を通して県に提出されたのは昭和五

政府が、甲南病院が「非営利の病院」であり、また平生の「奉仕精神」を示すことを政府が認めたためであると一月七日の日記に記す。

またここには、正式認可を三菱合資会社に知らせ、あわせて今一度醗金のことを懇請する手紙の文面もある。ここに至ればまさか謝絶することはないだろうとの思いもあったに違いない。ついに二月八日に届いた合資会社の青木菊雄理事からの返事に、合資会社は五万円を寄付することに決定したとあった。「天を仰いで神佑に謝し」、「不覚暗涙が胸に迫るを覚」える平生であった。

非営利・病人本位の病院

昭和九(一九三四)年六月一七日、財団法人甲南病院は聖心女子学院(現小林聖心女子学院)跡地、御影鴨子ヶ原に白亜五層の勇姿を現した。中流以下の人々のため、非営利で、有能な医師スタッフと真に病人のための看護制度を完備した、平生鈆三郎悲願の病院がここに実現したのである。

当時、平生の考える「非営利・病人本位」を掲げた病院はまずなかった。官立は医師のため、私立は営利のための病院と相場は決まっていた。二人の先妻を亡くしたことも平生の医療への信頼を失わせた。金銭にしか関心のない富豪が一方にいて、他方に「医は仁術」ということを齒牙にもかけない金儲け主義の医者がごまんといる。一般の職人の月収が三、四十円台の時代、

辻博博士との 病院設立構想と挫折

平生は大正一三(一九二四)年から翌年にかけてアメリカ、ブラジル、ヨーロッパの論理であった。

平生は実際に辻博と会って、「総合診療」方式で、「自己の専門に偏して他科に属する病源より来たる病徴を無視する弊」を取り除くこと、および年二、三回の健康診断をすることで平素から健康状態を記録することを目指したいとの辻の話聞き、これこそ彼が求め

平生鈆三郎 日記刊行 記念シリーズ

表向きの診察は少なくし、多くは自宅で「特診」と称して患者を診、身分に応じて三、四十円から二、三百円の診察料を請求する大学教授もいた。

誰もが信頼できる医療、これは教育と並んで平生の重要な社会奉仕事業となるのだが、ここには彼特有の国家社会観、正義観が如実に表われていた。

大正七(一九一八)年一月の日記にこんな記述がある。「ノーキユア、ノーペイ」、つまり全治しない患者からは報酬を受けず、全治した富豪からは「多大の報酬」を請求する病院は、自ら進んで「公共に尽くさざる富豪」に「間接的に慈善」を行わせる病院でもあると。

富豪の資金で理想の病院を建設する、このユニークな発想は平生に一貫して見られる。深刻な経済的、政治的、思想的行詰りの中、無産者による革命の脅威が高まってくると、彼のこの発想は一層現実味を帯びてくる。誰よりも富豪こそがこの危機に気付き社会奉仕へ自ら積極的に行動を起こさなければならぬ、また彼らが医療を通して階級間の有和を図ることは実は子孫のための「保険料」でもある、これが彼一流の論理であった。



設立当時の甲南病院(航空写真)

活動の輪を広げる同窓生たち

甲友の“絆”を訪ねて。

歩み、
未来へ。
甲南学園は、2019年に
創立100周年を
迎えます。

KONAN marks
the 100th anniversary
in 2019.

2015年8月現在、甲南大学同窓会会員は約10万人を数え、海外を含めエリアごとに38の甲南会が活動しています。同会は同窓生同士の親交を温めるに留まらず、甲南学園発展のために絶えずご尽力くださる頼もしい存在です。また近年は同業種や企業内においても、同窓のつながりが多様に広がっています。今回は、甲友の絆づくりのため精力的に活動する2つの甲南会をご紹介します。

池田泉州銀行甲南会

100人を超える同窓生が集い
甲南の絆を深め合う。



去る7月23日、梅田の大阪新阪急ホテルにおいて、池田泉州銀行甲南会平成27年度総会が開催されました。当日は100人を超える卒業生が集結し、世代を超えて同窓の絆を深め合うほか、藤田博久池田泉州銀行頭取、ならびに小林豊甲南大学同窓会会長（小林製薬株式会社代表取締役副会長・1968年文学部卒）もご臨席され、同会の持続的成長を願ってエールを送られました。

そもそも、甲南大学と池田泉州銀行との結びつきは深

く、阪神間を中心に地域に根ざしているという共通点からも、ともに有する組織文化が非常に似ています。そういった親和の伝統が脈々と引き継がれ、甲南大学からは毎年10人近くの卒業生が同銀行に就職し、活躍を続けています。

親睦から生まれた発展は
継承され、未来へとつながる。

また、甲南会の存在は行員の活性化に一役買っているようで、「会の存在は入行して知りましたが、配属の枠を超え交流できる点が気に入っています。また、同窓生のがんばりに触れると刺激にもなります」と、入行3年目の若手行員、谷口和輝さん（2013年経営学部卒）は話してくれました。総会に参加するのは今回で



入行3年目 豊中支店勤務の
谷口和輝さん（2013年経営学部卒）

甲南リアルターズ倶楽部

不動産とその関連業務の同窓会から、
今、甲南の枠を超えた広がりを。



甲南リアルターズ倶楽部は、不動産・建設業および司法書士・税理士などの関連業務に携わる甲南学園同窓生によって2003年に設立されました。その会員数は現在、約400人に上ります。発足以来、総会を含めた年4回の例会、名刺交換会、ゴルフコンペなどを定期的に開催。世代を超えた交流を通して親睦を深めるとともに、各会員の事業をより一層の発展に導くことを目標に活動してきました。今年2月からは、新執行部のもと他大学の同窓会組織ともさらなる親交を図り、甲南学園の枠を超えた業界ネットワークはより大きな広がりを見せています。

第一線で活躍する先輩の存在が、
在学生の頼もしい道しるべに。

去る8月21日に開かれた納涼例会も、他大学の団体代表を招いて意見交換をするだけでなく専門家による「メンタルヘルスの基礎知識と心のとらえ方」と題した講演会を企画するなど、単なる懇親会とは一線を画したビジネスマインドあふれる充実した内容となりました。甲南学園で学んだ信頼関係を卒業後も育み、それぞれの仕事の発展に生かす甲南リアルターズ倶楽部のみなさん。不動産・建設業界の第一線で活躍する先輩諸氏の姿は、同じ業界をめざす在学生たちの道しるべとなる頼もしい存在です。

●リアルターズ倶楽部では新規会員を募集中です〈連絡先：株式会社スクエアプラス内事務局〉

Tel:06-4304-5554 Fax:06-6765-5559 E-mail:info@square-plus.com HP: <http://www.konan-realtors.jp/us/index.html>

甲南リアルターズ倶楽部会長からのメッセージ

年齢とともに深まる母校愛を原動力に、甲南学園の応援団として力を発揮。



甲南リアルターズ倶楽部会長
ハynesコーポレーション(株)
営業部 所長

ありもと まさかず
有本 政一 氏
(1979年法学部卒業)

今年2月に甲南リアルターズ倶楽部の会長に就任しました。微力ではありますが、当倶楽部の活動を通じて甲南学園に恩返しする良い機会だと受け止めています。就任にあたっては3つの目標を掲げました。第1は、他団体との関係強化です。かねてより親交の深かったKGリアルターズクラブ(関西学院大学同窓生組織)とは、7月に合同例会を開催。神院会(神戸学院大学同窓生組織)やR・Eクロオーバー倶楽部(学校法人同志社同窓生組織)とも互いの例会に顔を出すなどして交流を深め、視野を広げています。

続く2番目は、各会員の事業に一層役立つ仕組み作り(組織)をめざすこと。当倶楽部への参加を通じて一人ひとりが大きく成長し、互いの得意分野を生かしながらネットワークを広げて共存共栄できる組織でありたいと考えて

います。最後になりましたが、3番目の目標が甲南学園への貢献です。4年後の2019年、甲南学園は、いよいよ創立100周年を迎えることとなりました。その記念すべき節目に向けて当倶楽部も応援活動に積極的に取り組むとともに現役学生を例会に招いたり、就職活動をサポートしたりと後輩とのコミュニケーションにも力を入れる方針です。

私に限ったことではありませんが、年を重ねるに従って母校愛が深まるのを感じます。だからこそ甲南大学には、常に輝く存在であってほしいのです。他大学にない魅力をもっと効果的にアピールし、さらなるブランド化を図ってほしいと心から願っています。そのために私たち甲南リアルターズ倶楽部もより一層発信力を高め、甲南学園の応援団として力を発揮します。

オール甲南の集い

開催のお知らせ

2015年11月22日(日)開催



会場：甲南大学 岡本キャンパス

今年もオール甲南の集いを開催いたします。星野仙一氏による特別講演会や中部銀次郎氏の特別展示、交流会など盛りだくさんのプログラムでみなさまのお越しをお待ちしております。



プロ野球球団
「東北楽天ゴールデンイーグルス」
取締役副会長

ほしの せんいち
星野 仙一氏

特別
講演会

我が野球人生

時間 14:00～ **場所** 甲友会館 大ホール

選手時代から、中日、阪神、楽天監督時代のリーグ優勝や日本シリーズ制覇、そして現在に至るまでのさまざまなエピソードとともに、自身の野球人生を振り返り講演をしていただきます。

特別講演会のお申込み・お問い合わせ

入場ご希望の方は、卒業年次、学部、お名前、ご住所、電話番号、申し込み人数(2名まで)をご記入のうえ、甲南大学同窓会事務局(メール: jimu@e-konan.netまたはFAX:078-811-9366)までお申し込み下さい(卒業生限定です)。

●締切りは10月31日(土)です。●応募者多数の場合は抽選のうえ、当選者に入場券を郵送します。

〈お問い合わせ〉TEL:078-842-0357

▶詳しくは<http://www.e-konan.net/>まで

特別展示



中部銀次郎展

時間 10:00～18:00

場所 甲友会館1階ロビー

甲南大学文学部を1965年卒業の 中部銀次郎氏は、1962年甲南大学在学中に日本アマチュアゴルフ選手権競技に優勝。「プロより強いアマチュア」と称された中部氏の、栄光の軌跡をパネル展示いたします。

オール甲南の集い プログラム

11:15	全国甲南会	(5号館 511講義室)	14:00	特別講演会(甲友会館)
11:45	甲南スカラシップ倶楽部(会場未定)		16:00	交流会 (5号館1階 カフェ・パンセ)

甲南大学体育会OB・OG 会長会議のご案内(主催:摂津会)

日時	11月22日(日) 11:00～
場所	3号館7階 第1会議室

甲南大学文化会OBOG会連合会(甲樽会)設立総会のご案内

日時	11月22日(日) 13:00～	場所	8号館 822講義室
お問い合わせ	甲樽会事務局 中林(旧姓赤松)まで 携帯:090-7493-7734 e-mail: korekaramo-zutto-yoroshiku@hotmail.co.jp		

約60年にわたりキャンパスライフを映し続けた 学友会館・学生会館が生まれ変わります。

岡本キャンパスの西エリアには、1955年に学友会館が甲南大学父母の会の寄付により建てられ、何度も増改築を進めながら、現在に至るまで大学生協・食堂として親しまれてきました。また、1969年には学生の自治活動や文化活動の発展を目的とした学生会館も竣工しました。

約60年にわたり、甲南大生のキャンパスライフを支えてきた両会館をはじめとするこのエリアは、甲南学園創立100周年記念事業の一環として、このたび“iCommons”(アイ コモンズ 正式名称:「KONAN INFINITY COMMONS」)として生まれ変わります。

“iCommons”には、食堂・課外活動施設のほか、一部の学生サービス部門の事務室も移転するなど、岡本キャンパスの新たなシンボルとして計画されています。竣工は2017年9月末を予定しており、現在の学友会館・学生会館は2015年末が見納めとなります。なお工事期間中、食堂、コンビニおよび文化系クラブの部室などは5号館北人工芝グラウンドに移設されます。

歩み、
未来へ。

甲南学園は、2019年に
創立100周年を
迎えます。

KONAN marks
the 100th anniversary
in 2019.



甲南学園、さらなる高みをめざして

学園創立100周年記念事業募金が始まります

募金名称	学園創立100周年記念事業募金	募金目標額	20億円
事業規模	100億円	募集期間	2015年10月1日～2020年9月30日(5年間)

●詳しくは、近々お手元にお届けする「100周年記念事業募金趣意書」にてご確認ください。



三宅 律子 専任職員
[カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室]

大学卒業以来、ずっと甲南大学で仕事をさせていただきました。たくさんの人と出会い、たくさんのご経験し、そこから教えられ、学んだことも、またたくさんありました。他では得難いほどに美しい六甲の山並みの麓で、多くの時間を過ごすことができた甲南での日々には、お世話になった方々に、心から感謝させていただきます。本当にありがとうございました。



青木 功 専任職員
[図書館・サイバーライブラリ事務室]

大学卒業後、甲南学園で40年がそう遠くない月日をおすごせいただきました。このたび甲南学園を退職することになり、今までお世話になった沢山の皆様に感謝申し上げます。諸先輩・同僚の皆様には仕事だけではなく人としてのありようも教えて頂きました。数十年前には想像することもできなかった厳しい環境のなか、甲南学園の益々の発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



藤本 建夫 教授
[経済学部]

経済学部への赴任が昭和48年、わくわくドキドキの42年間、甲南は私の人生そのもの。学生との日々の触れ合い、他学部の先生たちとの交流は象牙の塔にこもりがちな生活には常に新鮮な情報と活力の豊かな源。また大震災という悲しいこともあったが、教職員対抗野球も今では懐かしい思い出。定年後も平生日記編集で暫くお世話になります。



有村 兼彬 教授
[文学部 英語英米文学科]

私は、甲南大学の助手になってから43年間もお世話になりました。その年月に相当する様々な出来事を経て定年を迎えた私には「おもい」という助詞に深い意味を感じています。今後、学生募集等の点でこれまで以上に厳しくなるかも知れませんが、大学を弄ぶかのような施策によって混乱を極めることもあるように思えますし、何よりも教育の内容自体がこれまで通りというわけにはいかない時代になるかも知れません。そういう時代を前に一足先に現場を離れるわけですが、今後は甲南の外にあってエールを送り続けたいと思っております。皆様、長い間お世話になり、ありがとうございました。

平成27年度

退任教職員紹介

長い間
ありがとうございました



宮地 博明 専任職員
[甲南学園サービスセンター出向]

昭和48年入職以来、今年の3月末で無事定年を迎えることができました。42年間無事勤め上げることができたのも、お世話になった皆様のお蔭と深く感謝しています。少子高齢化の時代、大学も業態変革をする時代になるのでしょうか？厳しい環境となりますが、甲南学園の良き伝統を保ち、一層のご発展を心よりお祈りいたします。ありがとうございました。



緒方 正樹 専任職員
[ネットワークキャンパス東京事務所]

甲南人として43年、フロントやCUBEの立ち上げに加わり、NC東京で多様な人達に出会えたことは職員として稀有の経験と感謝しています。震災20年目の年に定年をむかえたのは偶然ですが、多大の犠牲と被害から再出発した年月を振り返りつつ、前例の通用しない内外の環境変化の中で、変わる甲南を職員OBとして楽しみにみつめています。



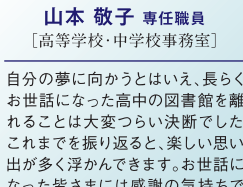
上埜 進 教授
[社会科学研究所 会計専門職専攻]

阪神淡路大震災がありました1995年4月に経営学部に着任しました。当初はプレハブの仮設校舎で授業を行いましたが、立派な校舎が次々と作られ、運動感あふれる美しいキャンパスで学生生活を過ごせました。2006年に、会計大学院が設置され、所属がそこに移りました。この20年間、良き学生に恵まれ、また、多くの著書・論文を執筆し国際的な広がりがある研究・学会活動ができたこと、感謝しています。



中島 信夫 教授
[文学部 英語英米文学科]

甲南大学には、私のこれまでの半生にあたる33年間お世話になりました。色々と失敗もありましたが何とか無事退職を迎えることができてほっとしています。大学にとっては、これから厳しい時代になりますが、私たちに代わって若い方が 甲南大学をさらに発展させてくださるよう願っています。



山本 敬子 専任職員
[高等学校・中学校事務室]

自分の夢に向かうとはいえ、長らくお世話になった高校の図書館を離れることは大変つらい決断でした。これまでを振り返ると、楽しい思い出が多く浮かんできます。お世話になった皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございました。甲南学園のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。



榎木 芳仁 専任職員
[大学企画室]

1975年に就職し、財務・総務など管理部門で学園の中長期計画を多くの教職員と協働し、学部や研究科の設置にも携わりました。なかでも法学部から始まった既存学部の改組は、伝統と革新が融合した教育改革にも繋がりが、現在の8学部5研究科の大学に発展しています。これまでもお世話になったみなさまに深謝申し上げますとともに、甲南学園の優しく温かい人物教育に期待し、益々の発展とみなさまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



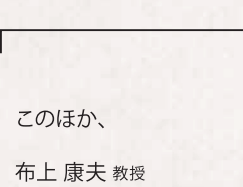
庭本 佳和 教授
[社会科学研究所 会計専門職専攻]

転勤族でもないのに、30歳で職を得てから6回(厳密には7回)引越した自宅ほどではありませんが、大学も3つ目です。最後の甲南大学で14年間お世話になりました。その間に、助成頂いた1冊の著書以外にも編著を2冊出版することができました。「教育力の甲南は研究力の甲南」という学園魂のおかげです。ありがとうございました。



池田 能幸 教授
[理工学部 機能分子化学科]

甲南大学理学院に入塾してから、今年3月末で退職するまで50年間同本に通いました。まさかこんなに長く勤められるとは思っていませんでした。その間、学内外を含め本当に色々な方にお世話になり、惹かれ続けることが出来たと感謝しております。私が年を取ったからかもしれませんが、阪神大震災までは、教職員・学部の枠を超えて交流があり、アットホームで、かつ、自由な雰囲気があったように感じています。甲南の精神文化、伝統文化の良さをもう一度思い出し、少子化に向かう厳しい時代ですが、学園がますます発展することをお祈ります。



布上 康夫 教授
(経営学部経営学科)

乾 正憲 専任職員
(経済・法・経営学部合同事務室)

も退職いたしました。



見市 薫 専任職員
[情報教育研究センター事務室]

昭和47年に甲南学園の事務職員として採用され、様々な部局を経験し、多くのことを学ばせていただきました。また、先生方、諸先輩、同僚そして後輩の方々に支えられ43年間の務めを全うすることができました。本当に感謝の念に堪えません。今後の甲南学園がますます発展し、平生精神を体得した優れた社会人を輩出することを祈願しています。



吉田 佳代 准教授
[国際言語文化センター]

2008年後期に着任して以来6年半という短い間でしたが、甲南大学国際言語文化センターに所属して英語教育に携わることができ、自分自身も非常に成長させていただきました。神戸という国際色豊かな場所は、外国の文化や言葉に触れる機会にも恵まれている環境です。皆さんも私のように将来家庭や仕事等の事情で海外に住むことになるかもしれません。今後社会の国際化が進んでいるので、万一の時に「常に備えよ」という平生の精神で、外国語の学習に動んでいただきたいと思います。



岩崎 晃 教授
[経済学部]

初めて勤務したのが甲南大学。日本が石油危機に翻弄されていた頃です。こじんまりした緑多いキャンパスでした。学生さんは純朴で理解力もなかなかのもの、講義もゼミも楽しかった。大講義でも、マイクを向けると、学生さんはしっかり返答してくれたものでした。結局、40年以上もお世話になりました。皆さん、ありがとう。



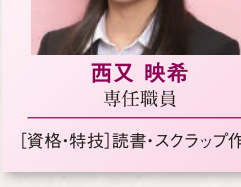
小脇 勇耶 専任職員
[資格・特技] サッカー、空手

フロンティア研究推進機構事務室



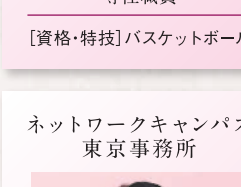
西 高弘 専任職員
[資格・特技] 地理歴史・公民教員免許、バレーボール

学長室



西又 映希 専任職員
[資格・特技] 読書・スクラップ作り

ポートアイランドキャンパス事務室



細原 佑哉 専任職員
[資格・特技] バスケットボール

キャリアセンター事務室

ネットワークキャンパス 東京事務所

菅 理華 嘱託職員
[資格・特技] ランニング・ワイン巡り・英語



GREENSPUN Matthew J.
外国人英語担当 契約教員

高等学校・中学校



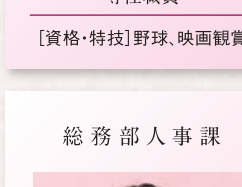
井上 大輔 専任職員
[資格・特技] バドミントン

西宮キャンパス事務室



岩田 桃子 専任職員
[資格・特技] 学芸員、図書館司書、旅行

経済・法・経営学部 合同事務室



亀田 正幸 専任職員
[資格・特技] 野球、映画観賞

学生部

総務部 人事課

木本 麻由 専任職員
[資格・特技] ミュージカル鑑賞



北居 明 教授
[専門分野] 組織行動論、組織文化論

経営学部



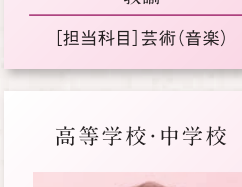
加茂 祐子 特任教授
[専門分野] 流通システム論、食料・農業経済学

経営学部



鷹尾 和彦 特任教授
[専門分野] 経営分析、食品流通業界

経営学部



今田 孝一 教諭
[担当科目] 芸術(音楽)

高等学校・中学校

DEVINE James P.

外国人英語担当 コーディネーター
[担当科目] 英語



MARTIN Andrew T.
准教授
[専門分野] 心理言語学

文学部
英語英米文学科



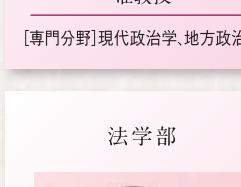
外山 真理 助教
[専門分野] 錯体化学、合成化学、光化学、分析化学

理工学部
機能分子化学科



村澤 康友 教授
[専門分野] 経済統計、計量経済学

経済学部



平野 淳一 准教授
[専門分野] 現代政治学、地方政治論

法学部

法学部

篠原 永明 講師
[専門分野] 憲法

平成27年度

新任教職員紹介

よろしく
お願いいたします！
(平成27年6月1日現在)

課外活動 成果報告 (敬称略)

みなさんの活躍に
心より拍手を送ります。

2014年9月～2015年7月

※一部に2014年8月を含む

【体操競技部】

第46回関西学生新人選手権大会 体操競技の部(11月)

岩佐幸輝(知3)・つり輪 第3位
平行棒 第2位

【弓道部】

関西学生弓道連盟リーグ(女子1部)(10月)

全勝優勝(2007年以来7年ぶり9回目)
全日本学生弓道女子王座決定戦(11月)
優勝(17年ぶり3度目の快挙!)

【バスケットボール部】

関西学生バスケットボールリーグ戦(9月)

【バドミントン部】

第27回関西学生剣道新人大会(11月)

【硬式庭球部】

関西学生地域テニストーナメント(11月)

【ゴルフ部】

第61回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権(10月)

【自動車部】

平成26年度全日本学生ジムカーナ選手権大会(9月)

【ソフトボール部】

第42回西日本学生ホッケー選手権大会(9月)

【バレーボール部】

第54回西日本学生バドミントン選手権大会(9月)

【テニス部】

【ラグビー部】

【サッカー部】

【野球部】

【バスケットボール部】

【バドミントン部】

【テニス部】

【ラグビー部】

【サッカー部】

【野球部】

【バスケットボール部】

【バドミントン部】

【テニス部】

【ラグビー部】

【サッカー部】

【野球部】

【バスケットボール部】

【バドミントン部】

【テニス部】

【ラグビー部】

【サッカー部】

【野球部】

【バスケットボール部】

【バドミントン部】

【テニス部】

【ラグビー部】

【サッカー部】

【野球部】

【バスケットボール部】

【バドミントン部】

【テニス部】

【ラグビー部】

【ヨット部】

2014年全日本学生シングルハンドレガッタ(9月)

赤尾裕亮(清1)・第4位

西半球&東洋選手権大会(9月)

尾崎玄弥(法3)・第29位

全日本学生女子ヨット選手権大会(9月)

総合 第8位

関西学生ヨット選手権大会(10月)

470級 第3位

スノーピーク級 第3位

総合 第3位

平成26年度公益財団法人兵庫県体育協会表彰(2月)

尾崎玄弥(法3)・優秀選手賞(国際大会)受賞!

【ライフル射撃部】

第40回全関西学生ライフル射撃新人戦

第9回秋季全関西学生ライフル射撃三姿勢戦

第4回秋季全関西学生デジタルスポート

ピストル記録会(11月)

西田寛(法4)・10mエアライフル3×20M W優勝

【陸上競技部】

天皇賜杯第83回日本学生陸上競技対校選手権大会兼第28回ユニバーシアード競技大会(2015光州)日本代表選手選考参考大会(9月)

辻愛(文1)・女子走高跳 第2位

山本有希子(文4)・女子走高跳 第8位

田中杏梨(文2)・女子100mハードル 第5位

女子4×400mリレー 第4位・荒木夏波(営2)・永野真莉子(営2)・寺井美穂(営3)・斎藤裕花(文4)

2014関西学生新人陸上競技選手権大会(2部)(9月)

永野真莉子(営2)・女子200m 第1位

荒木夏波(営2)・女子200m 第3位

辻愛(文1)・女子走高跳 第1位

田中杏梨(文2)・女子100m 第2位

女子100mハードル 第1位

第54回実業団・学生対抗陸上競技大会(9月)

辻愛(文1)・女子走高跳 第3位

第69回国民体育大会(10月)

辻愛(文1)・奈良県代表・成年女子走高跳 第8位

寺井美穂(営3)・福井県代表・成年少年女子共通4×100mリレー 第6位

連絡先

甲南大学図書館

庶務係 078-431-4341(代表)

図書館からのお願い

本館では、戦前の神戸、岡本周辺関係資料を収集しております。

現在は主にハガキや地図を集めております。資料をお持ちの方がございましたら、本館にご寄付いただきたくお願いいたします。

新刊レビュー

甲南大学の教員と
卒業生が執筆した

**心と体にすーっと
しみこむ
ミクロ経済学**

市野 泰和
[経済学部教授]著
中央経済社
¥2,600(税別)

**現代日本と
平生 弘三郎**

安西 敏三
[法学部教授]編著
晃洋書房
¥2,500(税別)

未来恐慌

機本 伸司
[1979年理学部卒]著
祥伝社
¥1,400(税別)

**ベーシック
応用経済学**

石川 路子
[経済学部准教授]ほか著
勁草書房
¥3,000(税別)

**財務会計論
I 基本論点編 第9版**

河崎 照行
[社会科学部研究科会計
専門職専攻教授]ほか編著
中央経済社
¥5,200(税別)

中小企業経営入門

中井 透
[1982年理学部卒]ほか著
中央経済社
¥2,300(税別)

**財務会計論
II 応用論点編 第9版**

河崎 照行
[社会科学部研究科会計
専門職専攻教授]ほか編著
中央経済社
¥4,400(税別)

**中小企業の会計制度
日本・欧米・アジア・
オセアニアの分析**

河崎 照行
[社会科学部研究科会計
専門職専攻教授]編著
中央経済社 ¥4,400(税別)

**これから始める人の
ふるさと納税らくらく
ガイド**

叶 温
[1997年経営学部卒]著
あさ出版
¥1,200(税別)

**いじめ加害者の
心理学**

大西 彩子
[文学部講師]著
ナカニシヤ出版
¥3,000(税別)

**いじめ加害者の
心理学**

大西 彩子
[文学部講師]著
ナカニシヤ出版
¥3,000(税別)

**いじめ加害者の
心理学**

大西 彩子
[文学部講師]著
ナカニシヤ出版
¥3,000(税別)

※甲南大学・高校の卒業生が書籍をご出版される際、ご連絡いただければ、「新刊レビュー」にてご紹介させていただきます。詳しくは、甲南学園広報部までお問い合わせください。

2015 Autumn NO. 48
甲南Today

発行日/2015年9月25日
発行/甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL. (078) 431-4341(代)

PRESENT

甲南オリジナルブックカバー

文庫サイズに対応した「KONAN」ロゴ入りブックカバー。
ご希望の方は、同封のアンケートハガキでご応募ください。

応募締切:2015年11月27日到着分まで

抽選で
20名様!



イベント

表紙を飾る洋画家
西井義晃氏の個展が開催されます
2015年10月21日(水)〜27日(火)
高島屋大阪店 6階美術画廊

中学

【テニス部】

近畿中学校新人テニス大会(2月)

団体 第3位

第3回全国選抜中学生テニス大会(3月)

出場・高倉壮真(2年・安留直喜(2年・滝野晋

悟(2年・西村瑛人(1年・西村圭人(1年・篠原

ユウコ(1年・杉内孝行(1年・佐々木心丸

(1年)

【ラグビー部】

兵庫県中学校ラグビーフットボール大会

(10月)

2年連続優勝(近畿大会出場)

高校

【弓道部】

近畿高等学校選抜大会(11月)

団体 出場・宮本祥太郎(2年・伊藤謙(1年)・

古澤建(1年)

藤山曉彦(1年)・個人 第3位

【テニス部】

第37回全国選抜テニス大会(3月)

出場・角谷智仁(2年・木村靖吾(2年・東野竜

治(2年・市岡和樹(2年・漁圭祐(2年)・竹山

世成(2年・堤一樹(2年)・花田貴充(2年)・西

村杜司(1年)